

エコアクション21
環境経営レポート

共同グラビヤ印刷株式会社

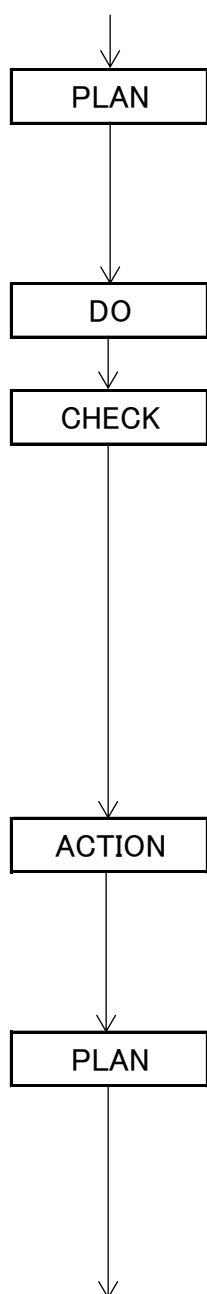
発行日 : 2021年7月1日

改訂日 : 2021年8月6日

(対象期間2020年4月～2021年3月)

目 次

	1.組織の概要	3
	1) 事業者名及び代表者名	
	2) 所在地	
	3) 環境管理責任者	
	4) 事業の内容	
	5) 事業の規模	
	6) EMS実施体制	4
	2.認証・登録の対象範囲	4
	3.環境経営方針	5
	4.今年度の主要な環境経営計画の内容	6
	5.今年度の環境経営目標およびそれに対する取り組み結果	7
	6.取り組み結果に対する評価	8
	7.本社以外の登録サイトごとの活動に対する評価	10
	8.教育訓練体制についての評価	10
	9.環境関連法規への違反、訴訟等の有無	10
	10.代表者による全体評価と見直し・指示	11
	11.次年度の活動管理について	12
	12.中期計画(2017年度～2021年度まで5ヶ年)	12
	13.次回の中期計画(2022年度～2026年度まで5ヶ年)	13
	14.次年度の主要な環境経営計画の内容	14



1.組織の概要

(1)事業者名及び代表者名

共同グラビヤ印刷株式会社
代表取締役 八谷達也

(2)所在地

〒496-0031 愛知県津島市埋田町5丁目100番地

(3)環境管理責任者

責任者	総務部長	高坂誠一
連絡先	電話:0567-25-2356	FAX:0567-26-3013
事務局	業務部業務課係長	柴田聡

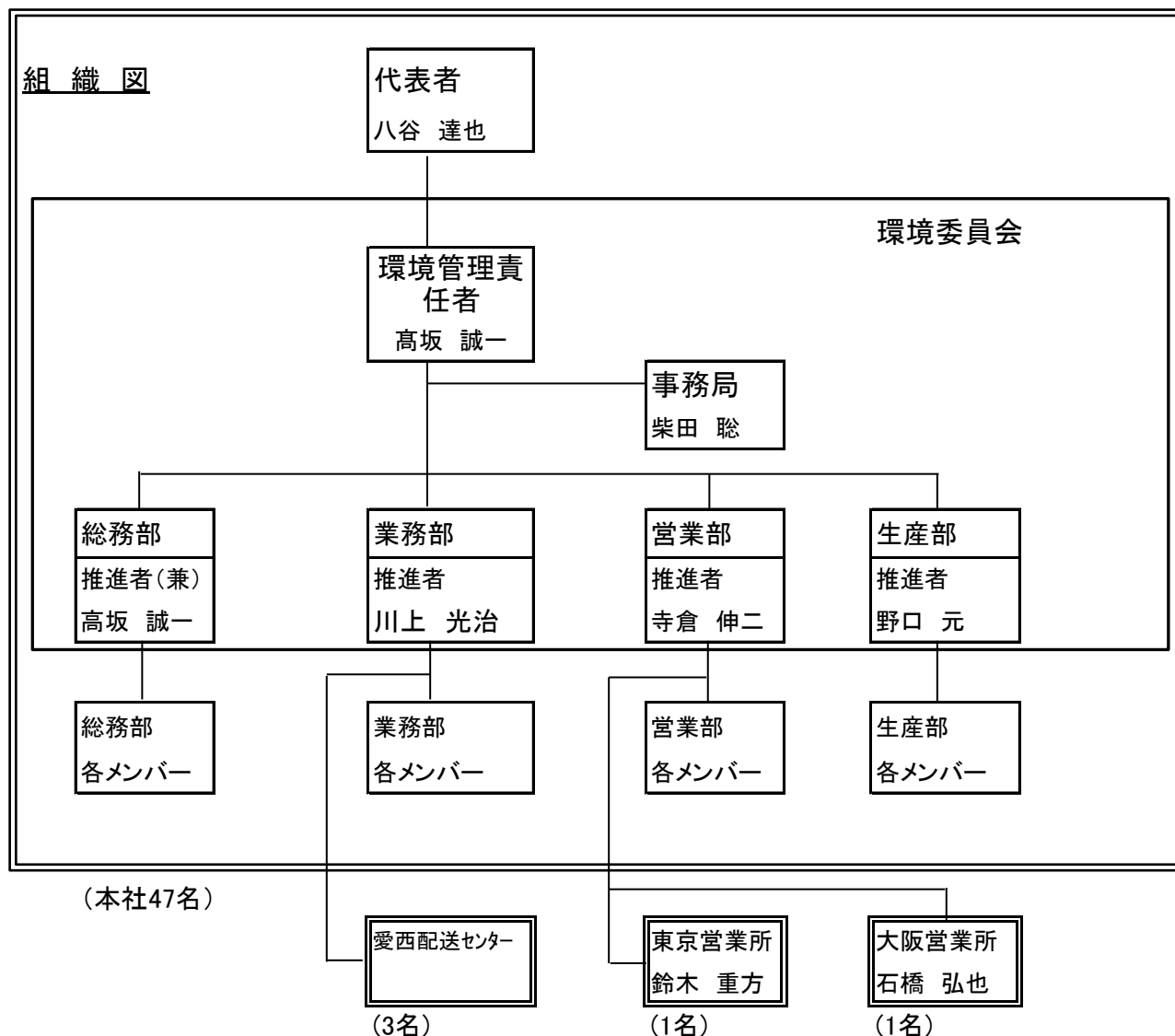
(4)事業の内容

グラビア印刷及び包装資材販売

(5)事業の規模

売上	11.7億円(2020.4月～2021.3月)
従業員数	52名(2021.4.1現在)
本社工場延べ床面積(駐車場含む)	2,183 平方メートル
愛西配送センター延べ床面積	1,904 平方メートル
東京営業所延べ床面積	40 平方メートル
大阪営業所延べ床面積	28 平方メートル

(6)EMS実施体制



役割・責任・権限

役割	担当者	責任・権限
代表者	社長 八谷達也	環境方針作成 環境管理責任者任命 活動に必要な各種資源用意 代表者による活動全体の評価と見直し
環境管理責任者	総務部部长 高坂誠一	EMS総責任者 システムの構築 運用状況の監査 システムの適合性・活動の実績を社長へ報告
事務局	柴田聡	全体計画立案、文書作成管理、活動の実績集計、法規等取りまとめ EMS事務管理 環境活動レポートの作成 啓発チラシの作成
環境委員会	上図の通り6名	各部門の活動計画の立案 手順書の作成
EMS推進者	各部・部、課長	教育訓練の実施、計画の実施状況確認・記録 自部門の問題点の発見
一般メンバー	上記以外の全従業員	環境方針の理解 取り組みへの積極的な参加

2. 認証・登録の対象範囲

(認証・登録番号 0002785)

事業活動 : グラビア印刷及び包装資材販売

対象事業所 : 本社、愛西配送センター、

東京営業所、大阪営業所

環 境 経 営 方 針

環境理念

共同グラビヤ印刷株式会社は、食料品関連の包装資材の生産活動を通じて環境にやさしい包装資材の提供を基本理念として、社会に貢献します。

環境汚染の予防と環境保全の継続的改善により、地球温暖化の防止と環境循環型社会の形成をめざします。

環境に配慮した商品を通じて、お客様の満足度を向上させられるように取り組みます。

基本方針

1. 共同グラビヤ印刷株式会社に、適用される法規制、共同グラビヤ印刷株式会社が同意するその他の要求事項を順守致します。
2. 環境経営システムを運用するに当たり、以下を目標に展開いたします。
 - ①グラビヤ印刷の生産活動において、省エネルギーに取り組み二酸化炭素の削減に努めます。
 - ②グラビヤ印刷の生産活動において、廃棄物の削減・リサイクルの推進に努めます。
 - ③機械使用時等の節水により総排出量の削減に努めます。
 - ④資材調達でのグリーン購入を推進いたします。
 - ⑤環境配慮商品、サービスの提供に努めます。
 - ⑥有害化学物質の使用量の削減に努めます。
3. 本方針を全社員に周知し、環境経営システムの継続的改善を進めます。

制定日 : 2009年 3月31日

最終改定日 : 2020年 2月 1日

共同グラビヤ印刷株式会社

代表取締役 八谷 達也

4 今年度の主要な環境経営計画の内容

1) 二酸化炭素排出量の削減取組み		
購買電力量	対象部署	責任者
A) 不要照明の消灯の徹底、節電ステッカ貼付	全部署	環境管理責任者:高坂
B) 冷暖房の設定温度の見直し、冷房時26℃・暖房22℃	全部署	環境管理責任者:高坂
C) パソコン等IT機器の使用管理の見直し	全部署	環境管理責任者:高坂
D) 機械のメンテナンス体制の充実	生産部	工場長:野口
E) 生産設備可働率の向上	生産部	工場長:野口
ガソリン・軽油の使用量		
A) アイドリングストップの徹底(ステッカの貼付)	全部署	環境管理責任者:高坂
B) 低速走行の励行、急発進の中止	全部署	環境管理責任者:高坂
C) 車のエアコン設定温度の見直し	全部署	環境管理責任者:高坂
D) 点検・整備の励行	全部署	環境管理責任者:高坂
E) 納品および営業活動のルートの見直しによる走行距離の削減	全部署	環境管理責任者:高坂
F) 配送トラックの走行距離・燃費データの把握と分析	業務部	業務部部长:川上
LPGの使用量		
A) 機械のメンテナンス体制の充実	生産部	工場長:野口
B) 生産設備可働率の向上	生産部	工場長:野口
C) 段取り向上による、工場稼働時間の短縮	生産部	工場長:野口
2) 廃棄物排出量の削減取組み		
一般廃棄物・事業系廃棄物		
A) コピー紙の再利用の促進	全部署	環境管理責任者:高坂
B) 紙管の回収及び再利用の促進	全部署	環境管理責任者:高坂
C) 再生紙利用の推進	全部署	環境管理責任者:高坂
産業廃棄物		
A) 良品の不良化の防止	営業/業務	業務部部长:川上
B) 試刷りの適正利用	生産部	工場長:野口
C) ロス・製造不良の削減	生産部	工場長:野口
D) オペレーターの技術向上	生産部	工場長:野口
3) 水使用量の削減取組み		
A) 節水ステッカの貼付	総務部	総務部部长:高坂
B) 手洗等の節水の徹底	全部署	環境管理責任者:高坂
C) 漏水チェック	全部署	環境管理責任者:高坂
D) 工場内の循環水の水量・水質の管理	生産部	工場長:野口
4) グリーン購入の取組み		
A) 事務用品のグリーン購入の推進	業務/東京/大阪	業務部部长:川上
B) 購入資材へのリサイクル材の積極的な採用	生産部	工場長:野口
C) 地元業者の利用	業務/東京/大阪	業務部部长:川上
5) 環境配慮品、サービスの取組み		
A) 溶剤を使用しないラミネートの推進	営業部	営業部次長:寺倉
B) 包装資材の古紙利用の促進	業務部	業務部部长:川上
6) 有害化学物質の使用量削減取組み		
A) トルエン・イソシアネートを使用しない加工法の提案	営業部	営業部次長:寺倉
B) 環境負荷の少ない化学物質への切替え	生産部	工場長:野口
C) インクの使用量の削減	生産部	工場長:野口
D) 5S活動によるインクの整理	生産部	工場長:野口
E) インク使用量の管理	生産部	工場長:野口
F) 空調機の使用管理	全部署	環境管理責任者:高坂
G) 残インクの再利用量の増加	生産部	工場長:野口

5. 今年度の環境経営目標およびにそれに対する取り組み結果

		基準年度実績値 (2016/4～2017/3)	今年度目標値 (基準年-4%)	今年度実績値 (2020/4～2021/3)	対目標 達成度	評価
二酸化炭素排出量 (売上1億円あたり) (kg-CO2換算)		54,250	52,080	45,679	-12.3%	○
内	電気使用量 (売上1億円あたり)(kWh) (kg-CO2換算)(※1)	24,958	23,960	23,471	-2.0%	○
	LPG使用量 (売上1億円あたり)(kg) (kg-CO2換算)	22,790	21,878	16,140	-26.2%	○
訳	ガソリン・軽油使用量 (L) (kg-CO2換算)	77,050	73,968	71,115	-3.9%	○
廃棄物等総排出量(kg)(※2) (売上1億円あたり)		(2015/4～2016/3)(※3) 13,331	(基準年-4%)(※3) 12,664	14,609	+15.4%	×
水使用量(m ³)		1,444	1,386	1,317	-5.0%	○
環境配慮型商品・ サービス推進の取り組み		環境負荷の少ないノンソルベントラミネート工法の推進				×
		ノンソルラミネートの生産高は昨年比-14.4%。内製比率も-4.3%。				
有害化学物質使用量 削減の取り組み		ボタニカル(バイオマスインキ)の使用の推進				○
		バイオマスマークを新規に付与した製品の製造を3月中に開始した				
		インキ使用量の削減・環境負荷の低い化学物質への切替				○
		結果:生産高比の印刷インキ使用量は昨年より-7.2%となり大幅に減らすことができた。(インキ購入額/生産高=27.5%) 溶剤再生機の稼働実績は、昨年比で+13.8%となり増加したが、営業日×2回の水準を達成することはできなかった。(1.7回/日)				

※1 電気使用量から二酸化炭素排出量を算出する際に、エナリス(登録番号A0153)の2015年の値0.331を使用します。なお、東京営業所は東京電力より電力を購入していますが、全体に占める割合が低く、計算の簡略化のためすべてエナリスの値を用いて計算を行います。

※2 廃棄物総排出量＝一般廃棄物および産業廃棄物(廃プラ・ウエス・廃インキ・鉄くず)

※3 廃棄物の基準年度には(2015/4～2016/3)を使用。(2016/4～2017/3)の数値が例年に比べ突出して高かったため。それに伴い目標値の設定も基準年より-4%ではなく-5%としました。

上記の表の数値には、それぞれ以下の対象サイトの数字が合算されています

電気使用量 本社・愛西配送センター・東京営業所

LPG使用量 本社のみ(他のサイトではLPGは不使用)

ガソリン・軽油使用量 本社・愛西配送センター・東京営業所・大阪営業所
(ただし、全社一体での購入のためサイトごとの数字は把握不可能)

水使用量 本社・愛西配送センター・東京営業所

廃棄物等総排出量 本社・愛西配送センター・東京営業所

大阪営業所については、対象サイトが住居と兼用した建物内にあり、電気・LPG・水・廃棄物の事業活動による負荷だけを取り出して計測することが困難であるため、数字による管理は行っておりませんが、これらの使用量・排出量の削減活動に取り組んでおります。

6 取り組み結果に対する評価

1) 二酸化炭素排出量(売上1億円あたり)

結果： 二酸化炭素の排出量は、総エネルギー使用量のCO₂換算値が前年比で+4%と増加してしまいましたが、目標については-12.3%となり達成しました。

評価： 化石燃料使用量については減らすことができましたが、電力・LPGについては前年よりも増加しました。

LPG(売上1億円あたり)

前年比 +1.34%でしたが目標に対しては -26.2%と達成することができました。

前年度は2019年度に空調機を更新した効果で大幅に良化しましたが、今年度は生産実績が前年度を下回ったこともあり、機械稼働の効率が悪化しました。

電気(売上1億円あたり)

前年比 +7.04%となりましたが、目標に対しては -2.0%とかわりて達成することができました。売上高を考慮しない使用量は減少しましたが、その減少率を超える形で生産実績が減少したため売上高あたりの数値は上昇しました。

ピークカットの試みについては、1日単位のピークは前年度が 4504kWh/日であったものが今年度は 4261kWh/日となりました。

月単位についても前年度が 88725kWh/月だったものが 82660kWh/月となりました。しかしこれは生産計画を調整したというものよりは、生産実績が落ち込んだものによる影響が大きいと考えられます。

ガソリン・軽油

ガソリン・軽油については、前年比で -6.7%と減少し、目標値に対しても -3.9%となり目標を達成することができました。

ガソリン単体については、-8.0%となりました。今年度は、コロナウイルスの影響で営業活動が制限されるなど、車の使用機会そのものが減ったことが理由として考えられます。この数字の良化が、コロナ禍の影響が解消されてからも続くかどうか長期的に確認する必要があります。

軽油については、前年比で -3.3%となりました。この数字も見た目には減っていますが、売上高の減少率に比べると小さい数字になっています。売上高が元の数字を回復した際のことを考えると決して楽観できる状態ではないと考えられます。

2) 廃棄物等総排出量(売上1億円あたり)

結果: 廃棄物排出量については、前年比では0.1%と増加し、目標に対しても+15.4%と目標達成することができませんでした。

評価: 廃棄物の種類ごとに見ると、大半の項目が前年度よりも減少している中、廃油と、木くず・紙くずが増えています。

廃油についてはさまざまな指標(経年劣化で不良在庫化したインキの廃棄量、インキ購入額と印刷生産実績の比率、接着剤購入額とラミネート生産実績の比率、溶剤再生装置の稼働実績)を検証しましたが、全て廃油の排出量が減少する指標を示しました。他に考えられる可能性として、廃油の排出量についてこれまでドラム缶の本数×200kgで計算を行っており、これは実際の充填率にかかわらず一律での計算であったため、誤差が生じた可能性があります。2020年4月より廃油について manifests が電子化され最終受け入れ数量が容易に把握できるようになりました。産業廃棄物全体の数値目標は過去の分と整合性を維持するため引き続き1缶あたり200kgで計算しますが、廃油単体の数量を評価する際には最終受け入れ数量のデータも活用していきます。木くず・紙くずについては、2020年9月から10月にかけて当社で保管していた木製のパレットのうち、保管時に劣化したり使い切れないとと思われる分についてまとめて廃棄処分を行ったため、一時的に増えた影響が出ているものと考えられます。木製パレットについては、本来は原料を当社に受け入れる際に持ち込みを禁止して当社で保持する分が増えないようにしたいのですが、当社から製品を出荷する際にも少量使用しておりその数を確保するため受け入れを制限できずにいます。なお、木くずについては基準年度には資源として管理していたため廃棄物としての排出実績がありませんでした。

3) 水使用量

結果: 水の使用量については、前年比で-55.6%となり、目標値に対しても-5.1%となり達成することができました。

評価: 前年度に水漏れが発生したトラブルがあり、その対策として週1回上水道メーターの数値を確認するようにしています。その確認表においても逸脱した数字は見られず問題は発生していないと思われれます。2015年度以来の低い水準となりました。

4) 環境配慮型商品、サービスの推進の取り組み

溶剤を使用しないラミネートの推進

ノンソルラミネートの生産高は前年比で-14.5%となり、大幅に減少しました。これは当社の売上高の減少幅よりもさらに大きなものとなっています。

前年度は働き方改革の規制に対応するため稼働実績が減少しており、前年度の時点でこれ以上減らす必要がない水準に達していましたが、今年度はさらに減少しています。

ポタニカル(バイオマスインキ)の使用の推進

今年度の後半期(2020年10月~)より、インキメーカーの協力を受けて、植物由来の成分を含み環境負荷の少ないタイプのインキへ切り替えを進めています。

また、そのようなインキを使用していることを社外にアピールし、また当社のお客様においても製品に「バイオマス(インキ使用)マーク」をつけていただくことで、最終消費者に環境活動をアピールすることができるように進めています。

インキの切り替えは進んでいましたが、実際に「バイオマスマーク」を製品に付加したアイテムが2021年3月より実績があがり始め、それ以降月ごとに点数を増やしています。

5) 有害化学物質の使用量削減の取り組み

環境負荷の少ない化学物質への切り替え

有害化学物質の管理の推進

インキ使用量の削減および管理

印刷機の生産高に対するインキの使用量は、前年比で -7%となり減少しました。ラミネート機の生産高に対する溶剤の使用量も、前年比で -5.6%となり減少しました。購入した化学物質を無駄にせず効率よく製品を製造できていると考えられます。溶剤再生機の稼働実績も、前年比で +13.8%となりましたが、1日2回(計33回)を必ず実施するという目標は達成することができませんでした。しかしその理由として機会の稼働忘れというわけではなく、溶剤再生機で回収されたリサイクル溶剤の使用用途が機械の初期洗浄に限られており、使いきれないため稼働させていないということも起こるようになりました。リサイクル溶剤の使用用途を広げることができないか検討する必要があります。

空調機の使用管理

空調装置を毎月1回点検し、故障によるフロンの外部流出がないか確認しています。

7. 本社以外の登録サイトごとの活動に対する評価

・愛西配送センター(常駐 0名)

電力使用量について、前年比で -0.5%となりほぼ前年並みとなりました。前年度が直近5年間で一番よい水準だったものをそのまま維持できています。長期在庫化している製品を別の拠点に移動させるなどして、倉庫に物が増えすぎて作業効率が下がることのないように対策しています。

・東京営業所(所属 1名)

電力使用量が前年度比で +7%となり、2年連続で増加しました。前年度は1~3月のみが影響を受けたコロナ禍による営業活動の制限が、今年度は通年で発生したため事務所にいる時間が増え、電力消費の増加につながったものと推測されます。

・大阪営業所(所属 1名)

ガソリン・軽油使用量、および環境にやさしい製品の推進の2つの項目のみの参加となっています。この2つとも全社あわせての評価となるため、大阪営業所の活動については、本社の活動とまとめて評価します。

8. 教育訓練体制についての評価

新人研修については、該当期間に新人が入社しなかったため実施されていません。ただし、新人研修に使用するための資料の作成は、定期的に行われました。

9. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

当社の環境管理に対する近隣住民からの苦情・指摘は直近3年間ありません。
環境関連の法規につきましては、『廃棄物の処理及び清掃に関する法律』・
『PRTR法』・『騒音規制法』・『振動規制法』・『フロン排出抑制法』などが適用対象に
該当いたします。これらの法規に対し、当社で順守状況を確認致しました結果、
違反はありませんでした。また、外部からの違反の指摘もありませんでした。

10. 代表者による全体評価と見直し・指示

前年度の活動に対しての評価

- ・ ポタニカル(バイオマス)インキの実績ができつつあるので、引き続き推進すること。
- ・ 集計につかわれる指標について、メンバーの実感しやすいものを使用して集計される体制は整ったので、今後はそれを利用した目標設定を進めること。

今年度の課題について

- ・ ノンソルベントラミネートの生産高がここ数年のあいだ伸び悩んでいる。これまで他のラミネート方法を採用している材質構成に対して、ノンソルベントラミネートで置き換えることができないかの検証を開始したので、早急に進めること。
- ・ 全社員が参加できる活動として、廃棄物の分別を徹底することがある。特に、廃プラスチック中の再生可能品については有価物として売却することができ、分別の徹底により再生品の割合を増やすことは会社の利益にもつながる。誰でもやれるようにマニュアルを定めて推進すること。当社で受注する製品の材質構成の傾向がここ数年で変化しているため、単純に過去と比較できないかもしれないが、かつては27%となった年もあるため25%は達成可能と考えられる。工場から排出されるロス分については現状でもそれなりに分別がなされているが、廃盤によって廃棄処分となった製品の廃棄時の分別が不十分と考えられる。その他にも、分別がおろそかになっているシチュエーションがないか省みる必要がある。
- ・ 成果や発生した問題点を報告するための会議について、開催される体制が変わったため、それに代わる機会を設定すること。また問題点が発生していない場合においても定時的に発表を行うように体制を整えること。

11. 次年度の活動管理について

次年度の活動レポートについては 2022年6月30日までに作成するものとします。

12. 中期計画(2017年度～2021年度まで5ヶ年)

今年度(2021年度)までは、以下の数値を使用して活動を評価いたします。

次年度以降については、次ページ 13項にて新たに中期計画を策定いたしました。

	二酸化炭素 総排出量 (kg-CO2)	電力使用量 (※1) (kg-CO2換算)	LPG使用量 (kg-CO2換算)	ガソリン軽油 使用量 (kg-CO2換算)	水使用量 (t)	廃棄物等 総排出量 (kg)
2016年度実績値 売上:11.85億円 (売上1億円あたり)	642,865 (54,250)	295,752 (24,958)	270,063 (22,790)	77,050	1,444	(※2) 151,180 (13,331)
2017年度目標値 売上1億円あたり	53,708	24,708	22,562	76,280	1,430	13,064
2018年度目標値 売上1億円あたり	53,165	24,459	22,334	75,509	1,415	12,931
2019年度目標値 売上1億円あたり	52,623	24,209	22,106	74,739	1,401	12,798
2020年度目標値 売上1億円あたり	52,080	23,960	21,878	73,968	1,386	12,664
2021年度目標値 売上1億円あたり	51,538	23,710	21,651	73,198	1,372	12,531

環境配慮型商品・ サービス推進の取り組み	2016年度のノンソルラミネート機の製造工賃高を維持 ボタニカルインキ(バイオマスインキ)の使用の推進
有害化学物質使用量 削減の取り組み	2021年度までに印刷生産高に対するインキ購入額の比率を29%に抑える 2020年度までに溶剤再生機の稼働実績を、営業日×2回の水準を達成

※1 電気使用量(kWh)から二酸化炭素排出量を計算するための係数は

0.331【エナリス(登録番号A0153):2015年】を使用

※2 2016年の廃棄物排出量の数値が平年に対し突出したものであったため、2015年の数値を使用

13. 中期計画(2022年度～2026年度まで5ヶ年)

- ・今年度(2021年度)中に、新工場の空調設備の更新が行われました。旧工場の空調設備の更新は一昨年に行われており、今後当分の間は更新の可能性がありません。機械設備についても更新予定がないことから、今後5年間の間は環境負荷に対して、設備面の変更による大幅な変動はないものと考えられます。そこで次の中期計画である2022年から2026年については、目標値を2020年度の実績値をもとに各年1%ごとの削減を見込んだ数値を採用することとします。2021年度の実績値ではなく2020年度の実績値を基準値として使用するため、中期計画初年度(2022年度)の目標値は基準値-2%の値となります。
- ・廃棄物等の排出量について、2021年までの中期計画の目標が未達成のままです。2009年のエコアクション21開始後から通算すると、11年間で12%減少しており、活動当初の目標は達成できている状態であるので今年度(2020年)の実績値をベースに目標値を再設定します。

	二酸化炭素 総排出量 (kg-CO2)	電力使用量 (※1) (kg-CO2換算)	LPG使用量 (kg-CO2換算)	ガソリン軽油 使用量 (kg-CO2換算)	水使用量 (t)	廃棄物等 総排出量 (kg)
2020年度実績値 売上:11.72億円 (売上1億円あたり)	571,043 (48,728)	310,784 (26,520)	189,144 (16,140)	71,115	1,317	(※2) 171,200 (14,609)
2022年度目標値 売上1億円あたり	47,753	25,990	15,817	69,693	1,291	14,317
2023年度目標値 売上1億円あたり	47,266	25,724	15,656	68,982	1,278	14,171
2024年度目標値 売上1億円あたり	46,779	25,459	15,494	68,271	1,264	14,025
2025年度目標値 売上1億円あたり	46,292	25,194	15,333	67,559	1,251	13,879
2026年度目標値 売上1億円あたり	45,804	24,929	15,172	66,848	1,238	13,732

環境配慮型商品・ サービス推進の取り組み	・ノンソルベントラミネートの年間生産高について7500万円を維持する ・ボタニカルマークまたはバイオマスマークを付与した製品を、2026年までに新規で100アイテム受注し、生産する
有害化学物質使用量 削減の取り組み	・分別を徹底し、廃プラスチック中の再生品の割合について25%以上を目指す ・インキの重量あたりの印刷生産高を、2020年度を100とした指標で2026年度までに「103」を目指す。(※3)

※1 電気使用量(kWh)から二酸化炭素排出量を計算するための係数は

0.374【アスエネ(登録番号A0678):2020年)を使用

※2 前回の中期計画(2017～2021年)にて、基準値を設定する時点で集計対象外だった「木くず・紙くず」が今回の中期計画では集計対象に含まれるため、前回の中期計画の値よりも大きくなります。

※3 これまではインキの購入額をもとにしていましたが、近年の価格変動が激しく、環境活動の成果を正しく評価するには不安定と考えます。そのため今後は重量をもとにした指標を採用します。

14. 次年度の主要な環境経営計画の内容

1) 二酸化炭素排出量の削減取組み		
購買電力量	対象部署	責任者
A) 不要照明の消灯の徹底、節電ステッカ貼付	全部署	環境管理責任者:高坂
B) 冷暖房の設定温度の見直し、冷房時26°C・暖房22°C	全部署	環境管理責任者:高坂
C) パソコン等IT機器の使用管理の見直し	全部署	環境管理責任者:高坂
D) 機械のメンテナンス体制の充実	生産部	工場長:野口
E) 生産設備可働率の向上	生産部	工場長:野口
ガソリン・軽油の使用量		
A) アイドリングストップの徹底(ステッカの貼付)	全部署	環境管理責任者:高坂
B) 低速走行の励行、急発進の中止	全部署	環境管理責任者:高坂
C) 車のエアコン設定温度の見直し	全部署	環境管理責任者:高坂
D) 点検・整備の励行	全部署	環境管理責任者:高坂
E) 納品および営業活動のルートの見直しによる走行距離の削減	全部署	環境管理責任者:高坂
F) 配送トラックの走行距離・燃費データの把握と分析	業務部	業務部部长:川上
LPGの使用量		
A) 機械のメンテナンス体制の充実	生産部	工場長:野口
B) 生産設備可働率の向上	生産部	工場長:野口
C) 段取り向上による、工場稼働時間の短縮	生産部	工場長:野口
2) 廃棄物排出量の削減取組み		
一般廃棄物・事業系廃棄物		
A) コピー紙の再利用の促進	全部署	環境管理責任者:高坂
B) 紙管の回収及び再利用の促進	全部署	環境管理責任者:高坂
C) 再生紙利用の推進	全部署	環境管理責任者:高坂
産業廃棄物		
A) 良品の不良化の防止	営業/業務	業務部部长:川上
B) 試刷りの適正利用	生産部	工場長:野口
C) ロス・製造不良の削減	生産部	工場長:野口
D) オペレーターの技術向上	生産部	工場長:野口
3) 水使用量の削減取組み		
A) 節水ステッカの貼付	総務部	総務部部长:高坂
B) 手洗等の節水の徹底	全部署	環境管理責任者:高坂
C) 漏水チェック	全部署	環境管理責任者:高坂
D) 工場内の循環水の水量・水質の管理	生産部	工場長:野口
4) グリーン購入の取組み		
A) 事務用品のグリーン購入の推進	業務/東京/大阪	業務部部长:川上
B) 購入資材へのリサイクル材の積極的な採用	生産部	工場長:野口
C) 地元業者の利用	業務/東京/大阪	業務部部长:川上
5) 環境配慮品、サービスの取組み		
A) 溶剤を使用しないラミネートの推進	営業部	営業部次長:寺倉
B) 包装資材の古紙利用の促進	業務部	業務部部长:川上
6) 有害化学物質の使用量削減取組み		
A) トルエン・イソシアネートを使用しない加工法の提案	営業部	営業部次長:寺倉
B) 環境負荷の少ない化学物質への切換え	生産部	工場長:野口
C) インクの使用量の削減	生産部	工場長:野口
D) 5S活動によるインクの整理	生産部	工場長:野口
E) インク使用量の管理	生産部	工場長:野口
F) 空調機の使用管理	全部署	環境管理責任者:高坂
G) 残インクの再利用量の増加	生産部	工場長:野口